

2024年12月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2024年5月9日

上場会社名 株式会社ポーラ・オルビスホールディングス 上場取引所 東  
 コード番号 4927 URL <https://www.po-holdings.co.jp/>  
 代表者(役職名) 代表取締役社長 (氏名) 横手 喜一  
 問合せ先責任者(役職名) 常務取締役財務担当 (氏名) 久米 直喜 (TEL) 03-3563-5517  
 四半期報告書提出予定日 2024年5月15日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2024年12月期第1四半期の連結業績(2024年1月1日~2024年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年12月期第1四半期	40,886	△3.0	3,357	△26.2	4,675	△3.2	3,126	14.0
2023年12月期第1四半期	42,136	11.9	4,549	137.9	4,832	16.7	2,743	△61.8

(注) 包括利益 2024年12月期第1四半期 2,780百万円(1.4%) 2023年12月期第1四半期 2,741百万円(△53.1%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
2024年12月期第1四半期	円 銭 14.13	円 銭 14.12
2023年12月期第1四半期	12.40	12.39

四半期連結経営成績に関する注記

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
2024年12月期第1四半期	百万円 200,777	百万円 164,349	% 81.6	円 銭 740.25
2023年12月期	201,207	168,398	83.4	758.49

(参考) 自己資本 2024年12月期第1四半期 163,781百万円 2023年12月期 167,806百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2023年12月期	円 銭 —	円 銭 21.00	円 銭 —	円 銭 31.00	円 銭 52.00
2024年12月期	—	—	—	—	—
2024年12月期(予想)	—	21.00	—	31.00	52.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2024年12月期の連結業績予想(2024年1月1日~2024年12月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	179,000	3.3	17,900	11.3	17,900	△3.1	11,600	20.0	52.43

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 有

(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 1社 (社名) 宝麗奥蜜思 (上海) 企業管理有限公司、除外 -社 (社名)

期中における重要な子会社の異動に関する注記

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用に関する注記

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 有

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

会計方針の変更に関する注記

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2024年12月期 1 Q	229,136,156株	2023年12月期	229,136,156株
② 期末自己株式数	2024年12月期 1 Q	7,885,551株	2023年12月期	7,897,963株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2024年12月期 1 Q	221,241,296株	2023年12月期 1 Q	221,234,231株

(注) 期末自己株式数には、役員報酬BIP信託が保有する当社株式 (2024年12月期 1 Q 223,498株、2023年12月期 235,910株) が含まれております。また、期中平均株式数の算定上控除する自己株式数には、役員報酬BIP信託が保有する当社株式 (2024年12月期 1 Q 232,807株、2023年12月期 1 Q 239,872株) が含まれております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は経済情勢等様々な不確定要因により、これらの予想数値と異なる場合があります。業績予想に関する事項は、【添付資料】P. 4 「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想等の将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	4
(3) 連結業績予想等の将来予測情報に関する説明 .....	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	6
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	10
(継続企業の前提に関する注記) .....	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	10
(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更) .....	10
(セグメント情報等) .....	10
(重要な後発事象) .....	11

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間（2024年1月1日～2024年3月31日）におけるわが国の経済は、経済社会活動の正常化や雇用・所得環境の改善の動きを背景に、景気はこのところ足踏みがみられるものの、緩やかに回復している状況です。一方で、賃金の上昇を上回る物価上昇が継続していること等により、個人消費の持ち直しに足踏みがみられております。

国内化粧品市場においては、緩やかな景気回復を背景に、個人消費が持ち直す状況となりました。また、円安効果や春節休暇による訪日外国人客の増加でインバウンド需要が伸長しております。海外化粧品市場においては、景気は一部の地域において弱さがみられるものの、持ち直している状況です。中国市場においては、不動産市況の低迷やデフレへの懸念等により、景気は持ち直しの動きに足踏みがみられる状況にあります。

このような市場環境のもと、2024年からスタートした中期経営計画（2024年から2026年）に基づき、4つの事業成長戦略「国内事業の顧客基盤強化、持続的成長と収益性改善」「海外事業の更なる成長と新市場での基盤確立」「育成ブランドの成長を伴う黒字化による持続的収益貢献」「ブランドポートフォリオ拡充と事業領域拡張」と、それを支える持続的な経営基盤の強化として「新価値創出に向けた研究開発力強化」「社会課題対応と独自性を兼ね備えたサステナビリティ強化」をテーマに掲げ、取り組んでまいりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間における業績は次の通りとなりました。

当第1四半期連結累計期間の売上高は、主に基幹ブランドであるPOLAブランドの売上の減少影響により前年同期比3.0%減の40,886百万円となりました。営業利益は売上高減による粗利の減少により前年同期比26.2%減の3,357百万円、経常利益は円安の継続で為替差益を計上した影響により前年同期比3.2%減の4,675百万円となりました。以上の結果に加え、前年に計上した特別損失の影響により、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期比14.0%増の3,126百万円となりました。

## 〔業績の概要〕

	前第1四半期 連結累計期間 (百万円)	当第1四半期 連結累計期間 (百万円)	前年同期	
			増減額 (百万円)	増減率 (%)
売上高	42,136	40,886	△1,249	△3.0
営業利益	4,549	3,357	△1,191	△26.2
経常利益	4,832	4,675	△156	△3.2
親会社株主に帰属する 四半期純利益	2,743	3,126	383	14.0

## 〔セグメント別の業績〕

## 売上高（外部顧客への売上高）

	前第1四半期 連結累計期間 (百万円)	当第1四半期 連結累計期間 (百万円)	前年同期	
			増減額 (百万円)	増減率 (%)
ビューティケア事業	40,950	39,552	△1,398	△3.4
不動産事業	518	499	△18	△3.7
その他	666	834	168	25.2
合計	42,136	40,886	△1,249	△3.0

## セグメント利益又は損失(△) (営業利益又は損失(△))

	前第1四半期 連結累計期間 (百万円)	当第1四半期 連結累計期間 (百万円)	前年同期	
			増減額 (百万円)	増減率 (%)
ビューティケア事業	4,359	3,575	△784	△18.0
不動産事業	161	52	△109	△67.4
その他	2	51	49	—
セグメント利益の調整額 (注)	26	△322	△348	—
合計	4,549	3,357	△1,191	△26.2

(注) セグメント利益の調整額とは、グループの内部取引に伴う利益及びセグメントに含まれない経費等を連結時に消去・加算した金額であります。なお、セグメント利益の調整額の詳細につきましては、P.10～11「1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報(注2)」をご覧ください。

## (ビューティケア事業)

ビューティケア事業は、基幹ブランドとして「POLA」「ORBIS」を、海外ブランドとして「Jurlique」を、育成ブランドとして「THREE」「DECENCIA」「FUJIMI」を展開しております。

POLAブランドでは、エイジングケア・美白を中心とした高機能商品の投入による更なるブランド価値の向上と、中長期的な顧客基盤構築を進めております。国内事業では、新規顧客獲得から高LTV化までの転換促進を実現するブランド体験(One POLAモデル)の構築に取り組んでおります。2023年に始動した全ての販売チャネルを対象とするメンバーシッププログラム「ポーラ プレミアム パス」の浸透によりお客さまのチャネル回遊が始まり、また新商品の「ホホワイトショット フェイシャルセラム」や「B.A ライト セレクター」、エステ等が好調に推移しておりますが、委託販売チャネルにおける店舗数と顧客数の減少等の影響により、国内事業全体で前年を下回る実績となりました。海外事業では、アフターコロナにおける事業回復と、重点市場である中国でブランドプレゼンスの確立のための顧客接点の拡充に取り組んでおりますが、中国を中心とする一部のアジア地域における景気減速の影響により、海外事業全体で前年を下回る実績となりました。以上の結果、POLAブランドは前年同期を下回る売上高・営業利益となりました。

ORBISブランドでは、高収益事業へと再成長を遂げるため、ブランド差別性の創出によるプレゼンス、顧客ロイヤリティの向上と、エイジングスキンケアシリーズ「オルビスユー」を中心に据えたシワ改善・美白ケア等、スキンケア顧客の拡大を進めております。国内事業では、スキンケアを軸にした直販事業の安定成長及び強固な利益基盤の構築と、未開拓市場への参入による新しい領域でのトップライン拡大に取り組んでおります。顧客基盤の安定化が進む直販チャネルでは、主力商品の「オルビスユー」シリーズの他、新商品の「アドバンスド ブライトニング セラム」等が好調に推移し、顧客数、顧客単価ともに前年超過となりました。新たな成長ドライバーと位置づけ積極展開している外部チャネルでは、顧客のリピート化も進んでおり、売上の伸長が継続しております。海外事業では、重点市場である中国での成長加速と黒字化のため、引き続き顧客接点の拡大とブランド認知向上に注力しておりますが、中国における景気減速の影響により、海外事業全体で前年を下回る実績となりました。以上の結果、ORBISブランドは前年同期を上回る売上高・営業利益となりました。

Jurliqueブランドでは、引き続き、豪州及び中国を中心としたアジア市場での事業成長に向けた取り組みを進めております。本国である豪州においては、アフターコロナの事業回復が順調に進み、更に新製品が好調に推移したことにより、前年より二桁成長の実績となりました。また中国においても、景気減速の影響を受けたものの、ECチャネルを中心に成長し、前年を上回る実績となりました。以上の結果、Jurliqueブランドは前年同期を上回る売上高となりました。また、営業損失は為替の影響を除くと前年同期並みの結果となりました。

育成ブランドでは、THREEブランドでブランド再生への取り組みを進めております。差別性である「精油」「香り」を軸とした顧客アプローチにより既存顧客を中心に活性化がみられておりますが、新規顧客の獲得が前年に及ばず、前年を下回る実績で推移しております。DECENCIAブランドでは、顧客数の増加トレンドが継続し、前年を上回る実績で推移しております。FUJIMIブランドでは、黒字化に向けて顧客体験価値を高める取り組みを進めており、前年同期並みの実績で推移しております。以上の結果に加え、前年に2ブランドを撤退した影響により、育成ブランド全体では前年同期を下回る売上高となりました。一方で、各ブランドにおいて厳格な費用コントロールを実施したこと等が奏功し、営業損失は改善しております。

以上の結果、売上高（外部顧客に対する売上高）は39,552百万円（前年同期比3.4%減）、営業利益は3,575百万円（前年同期比18.0%減）となりました。

（不動産事業）

不動産事業では、都市部のオフィスビル賃貸を中心に、魅力的なオフィス環境の整備による賃料の維持向上と空室率の低下に取り組むとともに、子育て支援に特化した賃貸マンション事業も展開しております。当第1四半期連結累計期間は、一部テナントの退去や「ポーラ青山ビルディング」の竣工に伴う費用の計上影響等により、前年同期を下回る売上高、営業利益となりました。

以上の結果、売上高（外部顧客に対する売上高）は499百万円（前年同期比3.7%減）、営業利益は52百万円（前年同期比67.4%減）となりました。

（その他）

その他に含まれている事業は、ビルメンテナンス事業であります。

ビルメンテナンス事業は、主にビルの運営管理を行っております。当第1四半期連結累計期間は、契約件数の増加等により、売上高、営業利益ともに前年同期を上回る結果となりました。

以上の結果、売上高（外部顧客に対する売上高）は834百万円（前年同期比25.2%増）、営業利益は51百万円（前年同期比2,423.6%増）となりました。

（2）財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ430百万円減少し、200,777百万円（前連結会計年度末比0.2%減）となりました。主な増減項目は、有形固定資産の増加3,398百万円、投資有価証券の増加2,276百万円、未収消費税の増加に伴う流動資産「その他」1,620百万円により増加し、一方で現金及び預金の減少7,613百万円、受取手形及び売掛金の減少1,263百万円により減少しております。

負債につきましては、前連結会計年度末に比べ3,618百万円増加し、36,428百万円（前連結会計年度末比11.0%増）となりました。主な増減項目は、未払金の増加に伴う流動負債「その他」の増加4,144百万円により増加し、一方で賞与引当金の減少387百万円、未払法人税等の減少223百万円により減少しております。

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ4,049百万円減少し、164,349百万円（前連結会計年度末比2.4%減）となりました。主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上3,126百万円、剰余金の配当6,865百万円により減少しております。

（3）連結業績予想等の将来予測情報に関する説明

通期の連結業績予想につきましては、2024年2月14日に発表しました業績予想に変更はありません。

(参考情報)

前期累計期間実績

	第 1 四 半 期	第 2 四 半 期	第 3 四 半 期	第 4 四 半 期
売上高	百万円 42,136	百万円 85,836	百万円 126,739	百万円 173,304
営業利益	4,549	8,966	11,913	16,080
経常利益	4,832	11,389	14,830	18,469
親会社株主に帰属する 四半期純利益	2,743	7,404	9,284	9,665

前期会計期間実績

	第 1 四 半 期	第 2 四 半 期	第 3 四 半 期	第 4 四 半 期
売上高	百万円 42,136	百万円 43,700	百万円 40,902	百万円 45,564
営業利益	4,549	4,416	2,946	4,167
経常利益	4,832	6,557	3,440	3,639
親会社株主に帰属する 四半期純利益	2,743	4,661	1,880	380

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2024年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	47,200	39,587
受取手形及び売掛金	17,820	16,556
有価証券	17,944	18,947
商品及び製品	12,198	12,665
仕掛品	683	954
原材料及び貯蔵品	3,534	3,625
その他	8,388	10,008
貸倒引当金	△72	△73
流動資産合計	107,697	102,272
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	16,528	31,557
土地	14,247	14,252
その他（純額）	22,920	11,286
有形固定資産合計	53,696	57,095
無形固定資産		
商標権	21	20
ソフトウェア	11,813	11,656
その他	91	91
無形固定資産合計	11,926	11,768
投資その他の資産		
投資有価証券	17,361	19,637
繰延税金資産	6,264	5,617
その他	4,582	4,739
貸倒引当金	△321	△353
投資その他の資産合計	27,886	29,640
固定資産合計	93,510	98,504
資産合計	201,207	200,777

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2024年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,751	2,712
1年内返済予定の長期借入金	12	12
未払法人税等	875	652
契約負債	5,226	5,456
賞与引当金	1,807	1,419
その他の引当金	216	86
その他	14,754	18,899
流動負債合計	25,644	29,238
固定負債		
長期借入金	46	43
その他の引当金	175	189
退職給付に係る負債	811	591
資産除去債務	3,534	3,500
その他	2,597	2,864
固定負債合計	7,165	7,189
負債合計	32,809	36,428
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	10,000	10,000
資本剰余金	81,025	81,026
利益剰余金	80,907	77,168
自己株式	△2,839	△2,800
株主資本合計	169,093	165,394
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	229	232
為替換算調整勘定	△1,772	△2,106
退職給付に係る調整累計額	255	261
その他の包括利益累計額合計	△1,287	△1,612
新株予約権	243	236
非支配株主持分	348	331
純資産合計	168,398	164,349
負債純資産合計	201,207	200,777

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2023年1月1日 至2023年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自2024年1月1日 至2024年3月31日)
売上高	42,136	40,886
売上原価	7,748	7,360
売上総利益	34,387	33,525
販売費及び一般管理費		
販売手数料	8,584	8,162
販売促進費	2,553	2,688
広告宣伝費	2,806	2,707
給料手当及び賞与	4,880	5,005
賞与引当金繰入額	934	811
その他	10,078	10,792
販売費及び一般管理費合計	29,838	30,168
営業利益	4,549	3,357
営業外収益		
受取利息	45	71
為替差益	247	1,220
その他	92	130
営業外収益合計	385	1,423
営業外費用		
支払利息	24	29
支払手数料	58	56
その他	20	19
営業外費用合計	103	105
経常利益	4,832	4,675
特別損失		
固定資産除却損	116	15
投資有価証券評価損	102	93
事業整理損	399	-
その他	2	3
特別損失合計	620	112
税金等調整前四半期純利益	4,211	4,562
法人税、住民税及び事業税	1,414	774
法人税等調整額	40	652
法人税等合計	1,454	1,426
四半期純利益	2,757	3,135
非支配株主に帰属する四半期純利益	13	9
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,743	3,126

## 四半期連結包括利益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2023年1月1日 至2023年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自2024年1月1日 至2024年3月31日)
四半期純利益	2,757	3,135
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	56	2
為替換算調整勘定	△64	△364
退職給付に係る調整額	△7	6
その他の包括利益合計	△15	△355
四半期包括利益	2,741	2,780
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,724	2,800
非支配株主に係る四半期包括利益	17	△20

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

(有形固定資産の減価償却方法の変更)

従来、当社及び国内連結子会社は、有形固定資産（リース資産を除く）の減価償却方法について、主として定率法を採用しておりましたが、当第1四半期連結会計期間より定額法に変更しております。

当社グループは2024年より新設したTDC（Technical Development Center）の稼働や、同じく2024年からスタートした中期経営計画の策定を契機として有形固定資産の使用状況を見直したところ、今後も中長期的な安定稼働が見込まれることから、耐用年数にわたり均等に費用配分を行う定額法を採用することが、有形固定資産の使用実態をより適切に反映し、期間損益計算をより適切に行う方法であると判断しました。

以上の変更により、従来の方法によった場合に比べ、当第1四半期連結会計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益がそれぞれ148百万円増加しております。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間（自 2023年1月1日 至 2023年3月31日）

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	ビューティケ ア事業	不動産事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	40,950	518	41,469	666	42,136	—	42,136
セグメント間の内部 売上高又は振替高	43	113	157	307	464	△464	—
計	40,994	631	41,626	974	42,600	△464	42,136
セグメント利益	4,359	161	4,521	2	4,523	26	4,549

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ビルメンテナンス事業であります。

2 セグメント利益の調整額26百万円には、セグメント間取引消去2,347百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△2,321百万円が含まれております。全社費用は、報告セグメントに帰属しない当社本社の管理部門に係る費用等であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

## II 当第1四半期連結累計期間（自 2024年1月1日 至 2024年3月31日）

## 1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	ビューティケ ア事業	不動産事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	39,552	499	40,051	834	40,886	—	40,886
セグメント間の内部 売上高又は振替高	56	110	167	411	579	△579	—
計	39,609	610	40,219	1,246	41,465	△579	40,886
セグメント利益	3,575	52	3,628	51	3,679	△322	3,357

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ビルメンテナンス事業であります。

2 セグメント利益の調整額△322百万円には、セグメント間取引消去2,336百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△2,658百万円が含まれております。全社費用は、報告セグメントに所属しない当社本社の管理部門に係る費用等であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

## 3 報告セグメントの変更等に関する事項

(有形固定資産の減価償却方法の変更)

「会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更」に記載の通り、従来、当社及び国内連結子会社は、有形固定資産（リース資産を除く）の減価償却方法について、主として定率法を採用しておりましたが、当第1四半期連結会計期間より定額法に変更しております。

当該変更により、従来の方法に比べて、当第1四半期連結累計期間のセグメント利益は、「ビューティケア事業」において138百万円、「不動産事業」において10百万円、「その他」において0百万円それぞれ増加しております。また、調整額（△）のセグメント利益は1百万円減少しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。